

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|------------|------------|---|--------|----|
| 107 - 182 | 高等学校 | 外国語 | 論理・表現Ⅱ | |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 231 いいずな | 論Ⅱ 231-901 | Harmony English Logic and Expression II New Edition | | |

1. 編修の基本方針

本書は、英語教育を通して、確かな学力、多文化共生時代を生きるために求められる資質・能力と、豊かな人間性を育成することを教育理念とし、それを具現化するため、次の3点を編修の基本方針としました。

①「知識・技能」の観点（第1号）

- ・英語で表現するための語彙力、文法力、慣用表現力を育てる。
- ・英語の言語資源を使って、さまざまなタスクを行う力を育てる。
- ・英語でのインプット（リスニングとリーディング）によって得られた知識を、アウトプット（スピーキングとライティング）につなげる。

→語彙力、文法力、慣用表現力を育てるためのコーナーをレッスン内に配置しています。

Forms and Expressions 英語で表現するための形（文法）を理解し、コミュニケーションに有用な慣用表現を理解する。

F-Guide 個々の文法の意味や働きを把握する。

Vocabulary テーマに関する語彙を増やす。

→各レッスンでは課ごとのテーマで自分のことを表現するさまざまなタスクを設けています。資料を読んだり聞いたりしたのちに、話す（発表・やりとり）活動、書く活動を、バランスよく、また有機的に組み合わせて配置しました。

②「思考力・判断力・表現力」の観点（第4号、第5号）

- ・物事を論理的に思考する力を育てる。
- ・現象を分析し、傾向性や因果関係などを判断する力を育てる。
- ・英語での会話、事物の描写、論理展開などを学習して、自己表現力・対話力を育てる。

→現象を分析し因果関係などを判断する力や、論理的に思考する力を育てるためのコーナーを用意しました。

論理的に発信するためのウォームアップ（p.5）論理的に話したり、書いたりすることの意味や重要性、その基礎づくりのための文法、ライティングの基本などを解説。

Tips for Logical Thinking（各課1ページ目）論理的に文を組み立てるためのヒント。

Hints for Logical Writing（各課4ページ目）各課のテーマに関して書く際の、論理的観点からのアドバイスを提示。

③「主体的かつ対話的に学習に取り組む態度」の観点（第2号、第3号）

- ・「なすべきこと」について行動計画を立て、それを実行する力を育てる。
- ・他者との協働を通して新たな可能性を創り出す共創力を育てる。

→学習到達目標を提示することにより、主体的に学習に取り組む態度を育みます。

レッスンごとの学習到達目標を *SELF-CHECK*、Zone ごとの学習到達目標を *Study Flow* として提示し、英語で表現する意欲と主体性を持たせます。学習の振り返りと自己評価も行えるようになっています。

→主体的・対話的に学習に取り組む活動を、各課のゴールに置きました。

Active Learning (各課4ページ目) 各課のゴールとなる4ページ目を **Active Learning** と題し、与えられたテーマについて主体的に考えたり調べたりしたうえで、自己発信を行う場としました。

Share **Active Learning** では、*Share* というペアまたはグループで情報交換を行うステップを毎回踏ませることで、協働を通して新たな可能性を創り出す共創力が育めるように設計しました。

2. 対照表

| | 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--|------------------------|--|--|
| 各 レ ッ ス ン 1 ペ ー ジ 目 ～ 4 ペ ー ジ 目 | LESSON 1～15 | 高校生にとって身近な「最近の出来事」「学習・課外活動」「食文化」「健康」などのほか、「ニュース」「都市構造」「世界平和」など、幅広い多様なテーマや場面を取り上げました。 (第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。) | 各レッスンの： 1ページ目 Start-Up 4ページ目 Active Learning |
| | LESSON 3, 15 | 勤労に係る「将来したい活動」「進路」をテーマに取り上げました。 (第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。) | 21-24, 93-96ページ |
| | LESSON 5, 6, 8, 10 | 社会に積極的に参画する心を育むため、「防災」「生活環境」「社会問題」「ボランティア」などをテーマに取り上げました。 (第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。) | 33-36, 37-40, 45-48, 59-62ページ |
| | LESSON 6 | 居住地の問題点などを考えさせるため、「住みよい街」などのテーマを取り上げて、思考したり、表現したりする活動を設けました。 | 37-40ページ |
| | LESSON 4, 8, 9, 10, 12 | 言語や異文化に対する理解や関心が深まるように、「日本らしい物の紹介」「多様性」「世界平和」「社会問題」など、自国や他国の文化や習慣、技術、諸問題に関するテーマを取り上げ、思考したり表現したりする活動を設けました。 (第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。) | 25-28, 45-48, 53-56, 59-62, 71-74ページ |
| 1 ペ ー ジ 目 | Forms and Expressions | 当該レッスンで扱う学習項目の紹介をし、その記述を生徒にとって分かりやすいものにするすることで、主体的に予習と復習をする学習習慣を身に付けることができるように工夫しました。(第2号) | 各レッスンの1ページ目 |
| 2 ～ 3 ペ ー ジ 目 | Task | 各3領域の技能を用いて表現をする活動を有機的に組み合わせ、言語の統合的な理解を促す構成としました。(第1号) | 各レッスンの2～3ページ目 |
| 4 ペ ー ジ 目 | ・ Share ・ Write | Share と Write では、協働学習を通して社会形成に参画する喜びを与えるように工夫しました。(第3号) | 各レッスンの4ページ目 |

| | | | |
|--------------------------------------|--|---|--|
| 1 ペー ジ コ ラ ム | <ul style="list-style-type: none"> ・ Zone Review (全4回) ・ Active Learning 資料 ・ Pre-LESSON | 言語や文化について、幅広い知識と教養を身につける扶助となるコラムを設けました。(第1号) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 29, 49, 81, 97 ページ ・ 57, 63, 69, 75, 85, 91 ページ ・ 58, 64, 70, 86, 92 ページ |
| 複 数 ペ ー ジ コ ラ ム | <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションをしてみよう! ・ ディスカッションをしてみよう! ・ ミニディベートをしてみよう! ・ パラグラフを書いてみよう! | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちを配慮しつつ、意図を円滑に伝達するための知識を提供しました。(第1号) ・ 社会人になって勤務に従事する際に有用な、伝達手法(ライティング・スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなど)の知識を提供しました。(第2号) | <ul style="list-style-type: none"> 30~31 ページ (プレゼンテーション) 50~51 ページ (ディスカッション) 78~79 ページ (ミニディベート) 98~105 ページ (パラグラフ) |
| 後 見 返 し | Study Flow | 生徒自身が目標を意識し、学習意欲を向上させることができるように、学習到達目標を一覧形式で表示しました。(第2号) | 後見返し |

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 学習上の配慮

- ・ 題材や登場する人物などについては、性別による偏りがないように配慮しました。また、人種や身体的特徴などについても、多様性に留意しました。
- ・ 豊かな人間性、創造性の獲得に資するため、全体を通じて美しく読みやすい書体や、ユニバーサルデザインに配慮した紙面、親しみやすいイラストを用いるように心がけました。
- ・ 各レッスンの Start-Up の会話と、Interactions の基本例文は、音声を二次元コードで提供し、学習者が自由に再生して学べるようにしました。

② 題材の選定

- ・ 性別や人種、特定の世界観や宗教に偏らないように努め、広いものの見方ができるように配慮しました。
- ・ 題材の内容は、学校生活、日常生活、食文化、健康、自然、発明、都市・町、社会問題など、さまざまな分野から選びました。

③ 中学校との円滑な接続

- ・ 中学校との接続を円滑にするために、中学までの復習と高校への橋渡しをねらいとする Introduction というページを設けました。
- ・ F-Guide (Forms のポイントの説明) では、各文法や表現をどのような場面で用いるかを具体的に示し、Task 等で活用できるようにしました。

④ 環境への配慮

- ・ 管理された森林資源を使用するなど、再生可能で環境にやさしい原料や製法で作られた用紙を使用しています。
- ・ 植物由来の油、およびそれらを主体とした廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ植物油インキを使用しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|----------------|----------------|---|---------|----|
| 107 - 182 | 高等学校 | 外国語 | 論理・表現II | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 231 いいずな | 論II 231-901 | Harmony English Logic and Expression II New Edition | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 高等学校外国語科の目標を実現するための工夫

- 1) 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深め, これらを実際のコミュニケーションにおいて目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけさせるため, 各レッスン中に **Forms and Expressions** (文の形と表現), **Vocabulary** (語彙), **Speaking** (会話の練習), **F-Guide** (文法) と要素ごとに解説と例を提示し, タスクの目的, 場面, 状況に応じて活用できるよう設計しました。
- 2) コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて外国語で情報や考えの要点や, 話し手や書き手の意図などを的確に理解して, 適切に表現したり伝え合ったりする力を養うため, 各レッスン中に **Tips for Logical Thinking** や **Hints for Logical Writing** などの補助的解説を用意しました。

(2) 論理・表現Ⅰの目標を実現するための工夫

英語学習の特質をふまえ, **話すこと [やりとり]**, **話すこと [発表]**, **書くこと** の3つの領域別に設定された目標の実現のため, レッスンごとにテーマを設け, そのテーマで自分のことを表現するさまざまなタスクを配置し, 英語の表現力を育成できるよう設計しました。

学習目標をレッスンごと, またゾーンごとに明示し, 適切な分量のタスクを学びやすい順序で配置することで, 英語で表現する意欲と主体性を常に学習者に持たせられるように留意しました。

各レッスンは, 「①導入→②定着→③発展」の3ステップ(4頁)の構成です。レッスンのゴールとなる「③発展」のステップでは, 3領域を総合的に用いて, 情報を理解したり自分自身の考えを発信したりする力を養うことに主眼をおきました。

各レッスンのテーマは, 「最近の出来事」「食べ物」といった身近なものから, 「バリアフリー」「社会問題」といった高校生の興味関心に訴える深いものまで幅広い話題を, 基本的な内容から順に配置して, 積極的にコミュニケーションを図る態度を育成できるように配慮しました。

レッスン以外のページとしては, 以下などを用意しました。

- ・ **Introduction** (pp.5 ~ 11) : 中学の学習内容の復習と高校への橋渡しを目的としたページ。
- ・ **自己発信活動のページ** (プレゼンテーションをしてみよう! / パラグラフを書いてみよう! (ほか) 事実や意見などを多様な観点から考察し, 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばせるページ。
- ・ **その他のコラムページ** : **Active Learning** 資料や, **Pre-LESSON** といった言語について, 幅広い知識と教養を身につける扶助となるページ。

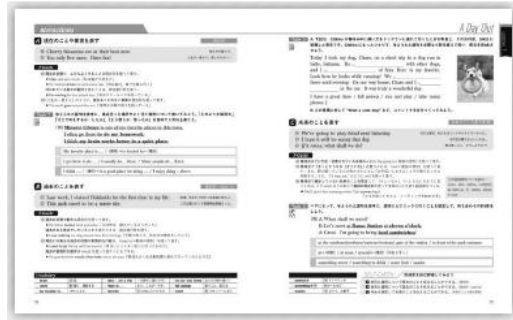
(3) 各レッスンの構成

各レッスンの「①導入→②定着→③発展」の3ステップ(4頁)構成の詳細は, 以下の通りです。ステップごとに学習上の目的を明示し, 教師にも学習者にも学習の過程が一目で分かるようにレイアウトを工夫しました。

1 導入



2 定着



3 発展



- 1 導入（授業への導入）** さまざまな場面の会話（**Start-Up**）を題材にして、英語の形や語順、表現、発音・アクセントを意識しながら話す練習をします。
- Start-Up** レッスンごとに設定したテーマで、高校生が自分の考えや経験を述べた会話の例を掲載しています。レッスンで学習する文法と、テーマに関して自分の考えや経験を述べる際に役立つ機能表現を用いています。
- Forms and Expressions** 英語で発信するために必要な英語の基本形（文法）とコミュニケーションに必要な機能表現を理解します。
- Speaking Start-Up** の会話文の音読。ひとりでも繰り返したり、ペアになって練習をしたりします。
- Tips for Logical Thinking** 論理的に文を組み立てるためのヒント。
- 2 定着（Interactions）** レッソンのテーマで、学習する文法項目を使ってやりとりを行います。さまざまなTask（英語で話す・書く・ペアワーク）を通して知識と技能を身につけます。
- 3 発展（Active Learning）** レッソンのテーマに沿って、与えられたトピックに関する発信活動を行います。「話す」活動や「書く」活動を積極的に行うことで、論理的に考え、判断し、表現する力をつけます。
- Share** 自分の意見や経験を、ペアの相手やグループのメンバーに話して情報交換します。
- Write** 自分自身の意見や経験を、40～50語の英文で書きます。

学習到達目標の提示

上記に加えて、レッスンごとの学習到達目標を **SELF-CHECK**、Zone ごとの学習到達目標を **Study Flow** として提示することで、学習者に英語で表現する意欲と主体性を持たせることに意を用いています。

- **SELF-CHECK**：各レッスンの3、4ページ目に掲載。学習到達目標をチェック欄とともに提示。
- **Study Flow**：教科書の後見返しに掲載。1st～4th Zoneの4段階の学習到達目標をチェック欄とともに提示。

レッスン以外のページ

- **前見返し**：英語による授業に活用できるよう「コミュニケーションにつながる英語表現」を整理して掲載しています。

● 1 ページコラム：

Active Learning 資料：レッスンで学習する内容の発展的情報を提供するページです。内容は「世界平和に貢献した人々」「国際ボランティア」「世界の健康・医療」「偉大な発明」「よりよいコミュニケーション」「世界のニュース」です。

Pre-LESSON：レッスンで学習する内容の発展的情報を提供するページです。内容は「国際協力とボランティア」「世界の健康・医療をめぐる状況」「世界がもし100人の村だったら」「ニュースの見方・読み方」「アイデンティティと生き方」です。

Zone Review：各ゾーンで学習した文法事項をわかりやすく整理して、その要点を解説した復習用のページです。

- **複数ページコラム（自己発信活動）**：「プレゼンテーションをしてみよう！」「ディスカッションをしてみよう！」「ミニディベートをしてみよう！」「パラグラフを書いてみよう！」の4種類の活動を通して、英語での表現力を高めるのに必要な表現手法を身につけるページです。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該 | 配 |
|----------|-----------|---|---|
|----------|-----------|---|---|

| 教材名 | 言語材料 | (1) 英語の特徴や きまりに関する 事項 | (2) 情報を整理し ながら考えな どを形成し、 英語で表現し たり、伝え合 ったりするこ とに関する事 項 | (3) | | | | | 当 箇所 | 当 時 間 |
|--|--|--------------------------------|--|---------------------|-------------------|--------------|--------------------------------------|-----------------------------|----------|-------------|
| | | | | ①言語活動 | | | ②言語の働き | | | |
| | | | | ア 話すこと [やりとり] | イ 話すこと [発表] | ウ 書くこと | ア 使用場面 | イ 働き | | |
| LESSON 1 During Spring Vacation | ・現在形 ・過去形 ・未来を表す表現 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校, 家 庭 | (イ) 望む | pp.13-16 | 3 |
| LESSON 2 My Favorite Star | ・現在完了形 ・過去完了形 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校 (イ) 動画 | (ウ) 説明する | pp.17-20 | 3 |
| LESSON 3 My Career Path | ・can / may ・must / should ・助動詞+have +過 去分詞 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校, 職場 | (オ) 質問する (疑問詞を使っ た表現) | pp.21-24 | 3 |
| LESSON 4 Talking about Japanese Culture | ・受動態 ・助動詞を含む受動 態, 受動態の完了形 ・be + 過去分詞+by 以外の前置詞 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 家庭 (イ) 本 | (ウ) 紹介する | pp.25-28 | 3 |
| プレゼンテーションをしてみよう! | | ア (ア) , (イ) | ア, イ | | (イ) | | | (ウ) 説明する | pp.30-31 | 1 |
| LESSON 5 Disaster Prevention | ・不定詞 (名詞/形容 詞/副詞用法) | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校での 学習や活動 (イ) ポスター, 地域 | (ア) 確認する | pp.33-36 | 3 |
| LESSON 6 Town Planning | ・形容詞+不定詞 ・seem + 不定詞 ・程度を表す不定詞 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校, 地域 | (ウ) 理由を述 べる | pp.37-40 | 3 |
| LESSON 7 Foods and Culture | ・動名詞 ・動名詞の完了形/ 受 動態 ・不定詞と動名詞 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 家庭, 地域 (ウ) 買物 | (ウ) 話題を発 展させる | pp.41-44 | 3 |
| LESSON 8 ICT and Universal Design | ・分詞 (限定用法 /分 詞形容詞) ・〈SVO+分詞〉 ・付帯状況/ 分詞構文 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校, 地域 (イ) チラシ | (エ) 提案する | pp.45-48 | 3 |
| ディスカッションをしてみよう! | | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (イ) | | | | | pp.50-51 | 1 |
| LESSON 9 World Peace | ・関係代名詞 (主格, 目的格/what/ 非限 定用法) | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校 (イ) 本 | (ウ) 要約する | pp.53-56 | 3 |
| LESSON 10 Volunteering Abroad | ・関係副詞 (where/ when, why/how・ 非限定用法) | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) , (イ) | (ア) 学校, 地域 | (ウ) 報告する | pp.59-62 | 3 |
| LESSON 11 Health and Lifespan | ・比較 (原級/比較級/ 最上級) ・差/倍数の表現 ・比較を使う表現 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) , (イ) | (ア) 学校, 家庭 (イ) 情報通信 ネットワーク | (エ) 推論する | pp.65-68 | 3 |
| LESSON 12 If the World Were ... | ・仮定法過去/仮定法 過去完了 ・過去のこと+現在の こと | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校 (イ) 記事 | (エ) 仮定する | pp.71-74 | 3 |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|----------------|------|-----|-----|-----|--------------------------------------|-----------------------------|-----------|----|
| | ・ 仮定を表す表現 | | | | | | | | | |
| ミニディベートをしてみよう！ | | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (イ) | | | | | pp.78-79 | 1 |
| LESSON 13 Culture Perception | and ・ hardly / rarely ・ 部分否定/ 全否定 ・ 付加疑問/ 間接疑問 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 地域 | (エ) 反論する | pp.81-84 | 3 |
| LESSON 14 World News | ・ 時制の一致 ・ 直接話法/ 間接話法 ・ ask + 人 + if / whether ... / ask + 人 + to do | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 家庭 (イ) テレビ (ウ) ニュース | (ウ) 報告する | pp.87-90 | 3 |
| LESSON 15 Be Yourself | ・ insist / demand (that) + 主語 (should) + 動詞の 原形 ・ 無生物主語の構文 ・ 強調構文 | ア (ア) , (イ) | ア, イ | (ア) | (ア) | (ア) | (ア) 学校 (イ) 雑誌, 情 報通信ネット ワーク | (オ) 質問する (疑問詞を使っ た表現) | pp.93-96 | 3 |
| パラグラフを書いてみよう！ | | ア (ア) , (イ) | ア, イ | | | (イ) | | (ウ) 描写する, 説明する (対 比) | pp.98-105 | 2 |
| 計 | | | | | | | | | | 50 |